

令和 7 年度 第 1 回
杉戸町総合振興審議会 会議録

期 日 令和 7 年 6 月 1 6 日（月）

場 所 杉戸町役場 第二庁舎 2 階第 1 ・第 2 会議室

会議録様式

審 議 会 名	令和 7 年度第 1 回杉戸町総合振興審議会
開 催 日 時	令和 7 年 6 月 1 6 日（月） 午前 1 0 時 0 0 分～午前 1 1 時 2 5 分
開 催 場 所	杉戸町役場 第二庁舎 2 階第 1 ・第 2 会議室
会 議 の 議 題	< 諮問 > 第 6 次杉戸町総合振興計画 第 4 次実施計画の事務事業評価について < 議事 > （１）第 6 次杉戸町総合振興計画 第 4 次実施計画及び第 2 期杉戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業評価について （２）第 6 次杉戸町総合振興計画 後期基本計画について
公開・非公開の別	<u>公開</u> ・ 非公開 （公開の場合傍聴者数 2 人）
	（非公開の場合理由）
出 席 委 員 氏 名	【出席委員】 木村三樹男、松村美知子、板橋昇、鈴木豊、宮野尾政子、横井正樹、谷藤恵美、水野順子、中里圭介、佐々木誠、菊地信一、青木恵理、新井晃、斉藤智章 【欠席委員】 茂利浩幸
審 議 の 概 要	
上記の議題について審議を行った。 詳細は別紙のとおり。	

審議概要

議事1「第6次杉戸町総合振興計画 第4次実施計画及び第2期杉戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業評価について」

■事務局より、資料1、資料2－1・資料2－2、資料3、資料4、資料5に基づき、説明。

- ・事務事業評価の実施内容について説明。
- ・対象事業は、総合振興計画については、子育て支援センター運営管理事業、生涯スポーツ推進事業、総合戦略については、移住・定住の促進（移住・定住プロモーション事業）とする。

質疑応答

（会長）

この移住定住PR冊子の説明をもう少しお願いできますか。

（事務局）

この冊子は、移住定住PR冊子『このまちで』というもので、コンセプトは多くの方が杉戸には何もないよと言いがちですので、海もなければ山もない、けれども、この町には必ず住んでいる人たちがいて、町に何か好きなものがあったり、愛着があって住んでいると思います。

この町にあるものに目を向けていただきたいという思いで、このまちには99のスギトゴトがあると題し、杉戸町にある99の魅力を凝縮した冊子となっています。掲載された魅力は、職員が見つけたものもあれば、住民の方と一緒にまち歩きを行って見つけたものもあり、みんなでつけたものになっています。

なぜ99という半端な数字になっているのは、この冊子で99のいいところを知ったら、冊子を読んだ方が100番目となる杉戸町の魅力を自分自身で見つけていただきたいというメッセージを込めています。

内容は、ビジュアルを中心に若い人が写真を見やすいような形にしており、特に今回注目していただきたいのが、13ページ、このまちに「ずっと住みたい

ワケ」があるということで、ずっと町に住んでいる町の先輩を紹介させていただいており、木村委員のインタビューをさせていただき、素敵な Web 記事を作らせていただきました。ぜひ QR コードからの木村委員の活躍・活動をご覧くださいただけたらと思います。

審議概要

議事 2 「第 6 次杉戸町総合振興計画後期基本計画について」

■事務局より、資料 6、資料 7、資料 8、資料 9 に基づき説明。

- ・前回会議での審議会委員の意見への回答、リーディングプロジェクトの検討等について説明を実施。

質疑応答

(新井委員)

まず、感想としては、事務局の説明がすぐ滑舌良くて、すごく聞きやすかったです。また、先ほどの冊子の説明も聴いて、伝える力があるなと思い、安心できました。

あともう 1 つ感想というか、前々回の会議の際に会長と職務代理者の指摘があった、ココティのイベント情報があまり届かず、広く教えて欲しいという話があった。しかしながら、やっぱり予算の制約もあって、中々難しいということでした。

ただその中で、回覧板を活用する案が上がっていたが、それが 2 週間後ぐらいに、実際に回覧板で回ってきた。こういう提言だけではなく、この会議での意見も採用してくれるということで、いいところが育ってきていると感じているので、伝えたいと思いました。

素案への意見ですが、リーディングプロジェクトについて、数が多すぎるので、減らしていく必要があると思います。リーディングプロジェクトは先ほどの説明では、後期計画の 5 年間で特に力を入れて推進していきたいということなのであれば、やはり外せない事業、この事業は失敗したな、できませんでしたという事業は違うと思います。

達成可能な事業で、他の事業を引っ張っていく事業にしなければいけないと思います。

例えば資料8 (a) 人口減少プロジェクトでいくと、主な取組が5項目あり、こども、雇用、協働、にぎわい、魅力、それぞれ未来像で言うと、未来像1、6、8にまたがり、当然担当課が多く、横断的にやっていく必要があり、複雑になる。リーディングプロジェクトを進めるにあたって、各課の課長が出てきて、自分のところでやりたいということになり、なかなかまとまらなくなってしまうので、リーディングは絞るべきだと思います。

私の意見ですが、杉戸町の独自性が出る事業に絞っていくのがよいと思います。杉戸町の自主裁量の余地が大きい事業がいい。そうすると、フィルターをかける必要があり、例えば私が考えたフィルターでは、予算が異常にかかる事業は無理ではないかと思う。もう一つは、事業の実施に時間を要するもの、期間が5年を超えるようなもの、国や県の横槍が入り、なかなか独自性が出せない、あとは近隣自治体との連携が必要で、杉戸だけではできないなど。

こうした点を踏まえて、リーディングのスリム化を図った方がよいのではと考えます。

(会長)

今の提案で、リーディングプロジェクトを絞った方がよいのではないかとのご意見ですけど、いかがでしょう。

(事務局)

今の御意見のとおり、もう少し絞っていきたいと考えております。わかりやすいようにフィルターをかけていけるように検討させていただきたいと思います。

(佐々木委員)

今の新井委員の意見に共感する部分が多かったです。

それに対して少しお話ししたいんですが、やっぱりこのリーディングプロジェクト、前回の意見の中でも、やはり基本計画の方が総花的になってという話をして、それを踏まえてリーディングプロジェクトで示して、ある程度絞り込むと少し明確化するという話だったかと思います。

リーディングプロジェクト案の内容は、アンケートやワークショップの結果を丁寧に拾っているという感じはするのですが、だからこそやはり新井委員が言われたように、ぼやけてるというか、総花的な感拭えない。リーディングプロジェクトなのに、あまりそうになっていないという感じがします。

あるいはキーワードを見ても、わりと普通というか、当たり前過ぎていて、例えば安全安心は当然のことだし、人口減少対策も全国的な話だし、健康も農業も結構普通な感じであり、5つの中ではデジタルというところ、これも全国的ではありますが、やっぱり重点的に取り組むべきはことだと思いますが、全体的にキーワードの拾い方や出し方にワクワク感がないというか、斬新さというか、新しさがない。

他の自治体の事例をピックアップしているが、例えばアンケートで公共交通の意見が多かったが、それが埋もれてしまってる。白岡市は一番目に、交通ネットワークの充実としっかり明示しているので、何かこういったものをいくつか参考にして、網羅的にするのではなく、基本的には基本計画の中で絶対これはというものを本当に絞り込んだ方がいいかなと思います。それにより、これを見ると5年後にこれが実現しているとワクワクするのではないかと思います。

あとは、庁舎建替をどうするのかということが、杉戸町にとって大きなテーマだと思うので、もし本当に実施するのであれば、書くべきだし、どうなのかというのをきちんと決断しないといけないと思います。

(事務局)

もう少し個別具体的に設定するか検討していきたいと思います。

(会長)

お二人の意見で共通するのは、総花的という点だと思いますので、ぜひその点を勘案して計画の策定をお願いします。

(板橋委員)

資料8の(C)のデジタルタウンプロジェクトで、デジタルもっと身近な町ということで、私も望んでる町づくりであるが、誰にとって便利で優しいのか、町民という言葉だけで言うと、町民も小さいこどもからお年寄りまであり、一番デジタルに慣れていないお年寄りの方にとっても優しいデジタルの町が必要だと思います。

一見相反するような感じがするが、例えばスマホで手順が複雑でお年寄りが迷ったり、面倒くさくなってできなくなったりといったデジタル特有の不便さ出てしまうこともあります。

それは、他の自治体も同じところがあると思います。だからこそ、杉戸町が優しいということであれば、そういったデジタル関係も配慮が行き届いたシステム、直感的に利用できるシステムがあるはずなので、町民サービスの向上について、様々な人たちの利便性を考えて、他自治体よりも一歩リードすることができるようなサービス提供のできる町の体制を構築していった欲しい。

デジタルで、もっと身近なまちに、もう少し、誰にとっても、若者からお年寄りまで支援するといったニュアンスを入れていただいた方がよいと思います。

(事務局)

今の板橋委員からの貴重なご意見をいただきました。町のホームページが1年半ほど前に大幅にリニューアルしたところですが、これまでのシステムは15年前ぐらいから使っており、まず職員が十分に管理しきれない結果、住民の皆さんに伝えたいことが伝わらないという欠陥がありました。今のご指摘は、インターフェースの問題だと思いますが、これはホームページ一つ取ってみても、かなり職員が操作しやすい。逆に検索もしやすくなって町民の利便性が向

上させる形に改めたという経緯がございます。様々な AI を入れたりして、これからさらに学習を深めて、よりわかりやすい検索のしやすい仕組みを作っていかなければいけないと思っておりますが、御指摘のお言葉を踏まえて、計画の方で入れていきたいというふうに思います。

(板橋委員)

だいぶシステムは良くなっていると思うが、知っている方は使えるが、知らない方はまだまだ直感的に利用できるインターフェースではないと感じています。

(斎藤委員)

資料 8 の (a) 人口減少対策に障がいのある人への項目を入れて欲しいです。障がいのある人も安心安全に暮らせるような項目を盛り込んでいただけるとよいと思います。

(事務局)

リーディングプロジェクト自体もまだまだ内部で見直していく必要がありますので、御意見も踏まえて内部で検討していきたいと思えます。

(会長)

資料 6 の基本計画素案で前回から変更となっている点の説明を簡単をお願いできればと思うのですが。

(事務局)

前回から変更している点は、53 ページにリーディングプロジェクトを追加する予定でございます。内容は先ほど説明した通り、検討中になっております。

次に、60 ページになりますが、掲載されている指標について、前回の会議で

政策指標と施策指標の2つに分けて掲載していましたが、一本化した成果指標として、掲載していく予定で考えています。前期基本計画の指標を基本として、計画の基本構想である計画期間の10年間を通して、最終的に成果を測定できるようにしていきたいとの考えから、前期を引き継ぐ形で指標を設定していきたいと考えております。

次に105ページの施策32「豊かな自然の保持と継承」、106ページ施策33「地球温暖化対策の推進」については、前回の会議で2つの施策を統合して「環境保全の充実」にして提示していたところですが、会議での御意見に基づき、統合ではなく、別々の施策に変更しております。施策の内容については、前期基本計画の施策をベースに作成しております。

次に98ページ、施策27「人を惹きつける魅力的なシティプロモーションの推進」ですが、前回の会議を踏まえて、町民への行政情報の発信として、情報については、町民への発信についても、施策に位置づけ、積極的に行うようにしていきたいと考えて、変更しております。

大きな変更点としては、以上になります。

(会長)

115ページ、「杉戸町デジタル田園都市国家構想の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略」について、この名称はオーソライズされた表現なのでしょうか。

(事務局)

国において、デジタル田園都市国家構想を策定しており、この構想に基づき、市町村でもデジタル田園都市国家構想を策定するように国から言われているため、名称に入れているところです。現状においても国の計画としてデジタル田園都市国家構想は計画期間中の状態です。

しかしまさに今、地方創生2.0ということで、国が別の計画に改訂しようとしているところになります。こうした状況を踏まえて、国の動向を注視しながら

ら、名称について検討していきたいと考えております。

(会長)

名称が前時代的な感じがするため、変更を検討していただければと思います。

(佐々木委員)

素案について、前回の会議で各施策をどこの所管課が担当するのか、どこの方が担当するのか不明確である旨の意見を申し上げた。今回は、その点が修正されているのでいいなと思いました。

それを考えると、リーディングプロジェクトについても、どこの課がこれを担当するのかという点が不明確なので、リーディングプロジェクトの方こそ明確にする必要があると思います。

先ほどの絞った話からすると、いろいろな項目に、それぞれの主な取組となると、ぼやけてしまう。絞って明確化していくのがよいと思いました。

もう1点、木村委員のコメントの中で関係人口というキーワードがあり、事務局の説明にも地方創生2.0について、新聞の報道でも見えています。この点が重要なポイントになってくると思います。

移住や空き家の活用など、住んでる人以外の周りの方、例えばうちの大学の学生が関わるといったことも含めて関係人口というところにあらわれてくるのかなと思いますので、ここはリーディングプロジェクトのところで、強調したらいいかなと思います。

あと書かれてる中で言うと、先ほども少し説明のあった情報発信とかシティプロモーションという点がもう少し表に出たらいい、あと空き家対策や公共交通は皆さんが関心のある点だと思いますので、主な取組というよりは、もう表に出していいのではないかというふうに考えておりますので、ご検討いただければと思います。

(会長)

今のご意見は提案ということでぜひよろしく願いいたします。

(水野委員)

計画の目玉になるような事業があればいつも話をさせていただいています。様々な事業があるが、国から降りてきた事業では、すべての自治体が同じことをやることになるので、少し進歩がないのかないつも感じております。

一歩先を行くような施策を考えていただき、計画に盛り込んでいただければと思いますが、皆さんからの御意見を伺って、なかなか難しい問題だなと思っております。それでも私達が諦めてしまったのでは、せっかくの会議に出させていただいているので、ここで諦めてしまって、こんな程度のものという考え方だけはしてはいけないと思っています。後日意見書に考えを記入させていただければと思います。

(板橋委員)

前回の会議でも少しお話したが、計画書に関連する計画として計画名が掲載されています。町民が関連する計画を調べるときに、計画書に二次元コード等を記載して、関連する計画を調べやすくするような配慮があるとよいと思われます。

(事務局)

計画書の冊子からなのか、ホームページからなのか、関連する計画を検索できるようなかたちを検討していきたいと思います。

(新井委員)

アンケート結果で、関心が高かった空き家対策について、危機管理課が空き家バンクの問い合わせ先になっており、結構よい冊子をもっており、官民連携事業で、令和6年度から実施している。そういうものの二次元コードを掲載す

ることはできると思います。

(佐々木委員)

先ほどの水野委員から出た、国から降りてきた事業をそのままではなくてというのは、すごく大事だなと思いました。

そこでやはりぜひお考えいただきたいのは、杉戸らしさがどこにあるのか、杉戸の売りはどこか、強みがあると思うので、そこら辺をリーディングプロジェクトに、特にはっきり出てくるといいなと思いますので、検討いただきたい。